



# 新庄小学校だより 3月号



## 自分づくり

校長 山口 浩二

児童会の集会委員が「特技発表会」を企画してくれました。これは、授業の中で習得した技能や、習い事で身に付けた得意技を、全校児童の前で発表する機会です。先生と一緒に学年みんなで練習してつくり上げる「学習発表会」とは異なり、出場の有無や発表内容も一人一人の子供の主体性に委ねられています。

当日は、体育館に集まった全校児童を前に、出場を申し出た子供たちが次々とダンスや縄跳び、楽器演奏やイラストなど実に多種多様な技を披露しました。中には、けん玉やマット運動の高度な技を披露する子供もいて会場は大いに盛り上がりました。



さて、発表者の多くが複数名のグループで出場しているのですが、たった一人でステージに上がった子供がいました。3年生のAさんです。実は友達と二人で歌唱するはずだったのですが、その友達が休んでしまい、一人で歌うことになったようです。しかし、Aさんはひるむことなく、音楽の時間に習った歌を最後まで堂々と歌い上げました。歌が終わった瞬間、会場から大きな拍手が沸き起こり、審査員に選ばれていた子供たちも、のきなみ「すごい」という札を挙げていました。Aさんのとてもきれいな歌声に対して感動したことは間違いのないと思うのですが、それ以上に、一人で歌いあげることのできたAさんの内面（心の強さ）に対して会場の子供たちは感動したのだと思いました。

発表会が終わった後、進んで縄跳びの練習に取り組み始めるなど、発表者の姿を見たことをきっかけに新たな目標をもって歩み出した子供がいたという話を担任から聞きました。発表した子供にとっては、みんなから拍手をもらえたことで自信につながったようですし、見ていた子供たちにとっても、発表者の姿から刺激を受けることができたようです。双方にとって「自分づくり」につながるよい機会になったものと感じました。

余談ですが、折よく来校していた卒業生（教育実習生）もこの発表会を参観し、子供たちの表現する姿に感動していました。そして「昔に戻って、小学生の頃の自分に、怖がらずに積極的に表現するよう言ってやりたいです」と感想を漏らしていました。聞くと、大人になるにつれ、よりいっそう自己表現（主張）することの大切さを実感するようになってきたのだそうです。

「自分づくり」とは、理想とする自分の姿を目指し、意識的に経験・知識・内面を磨いていくプロセスのことです。今後も新庄小学校は、子供たちの「自分づくり」の場として、その役割をしっかりと果たしていきたいと考えています。

本年度も残すところあと1か月となりました。この1年間、本校の教育活動を支えていただきました保護者の皆様、地域の皆様方に心からお礼を申し上げます。